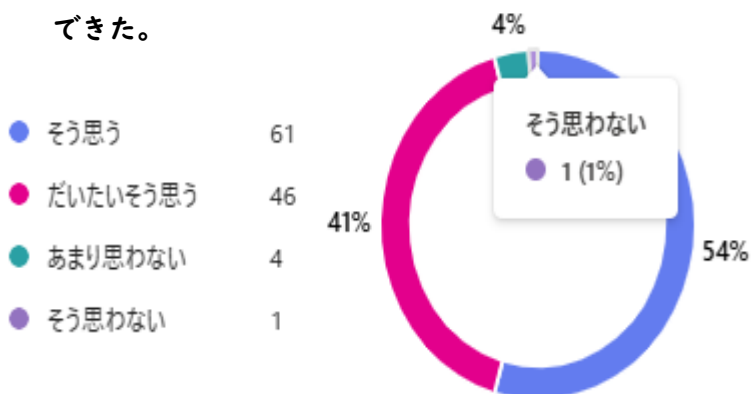
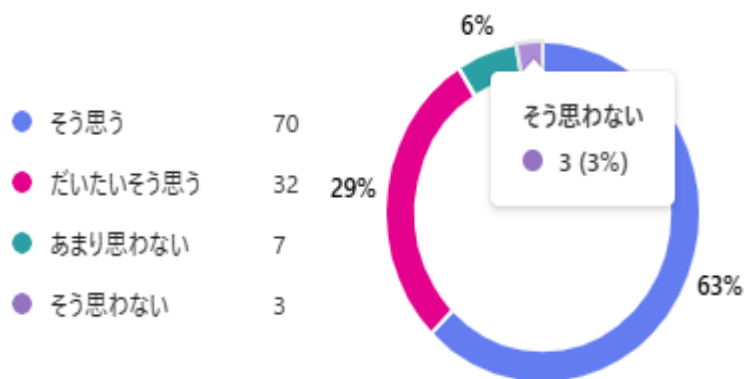


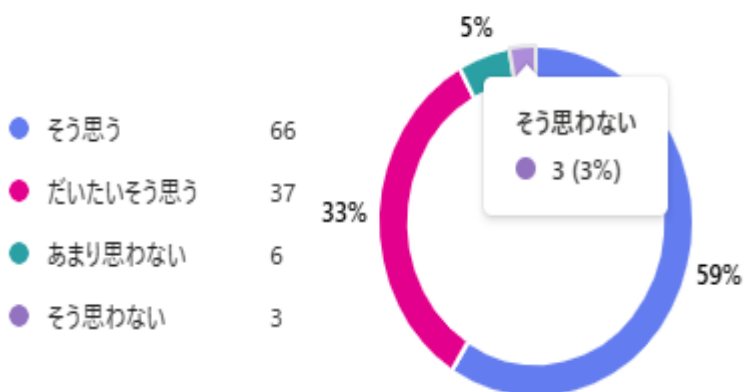
1. 学校に来るのが楽しいと思いつながら過ごすことができた。



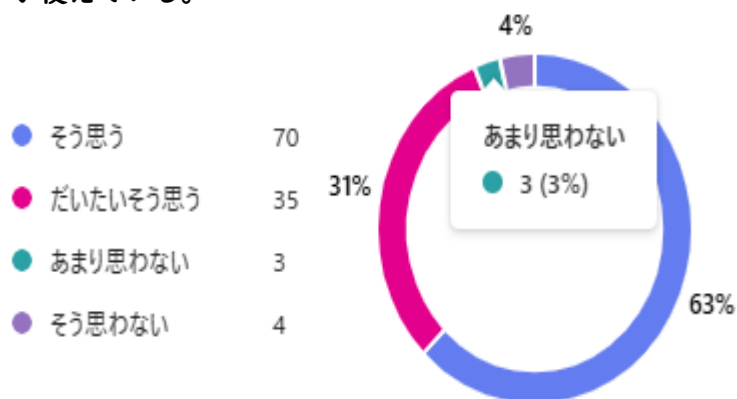
2. あいさつをきちんとすることができた。



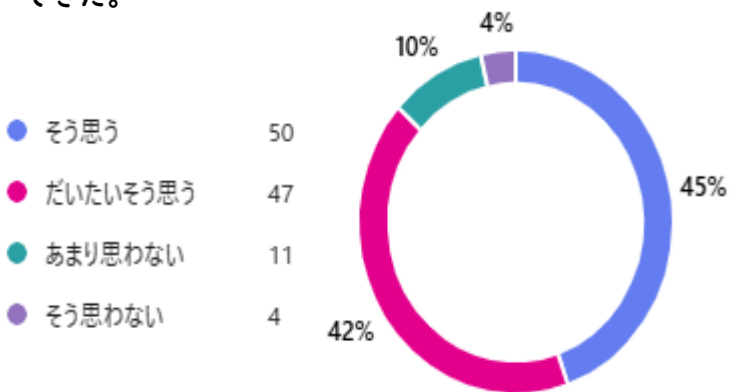
3. 自分や友達の「良いところ」を見つけている。



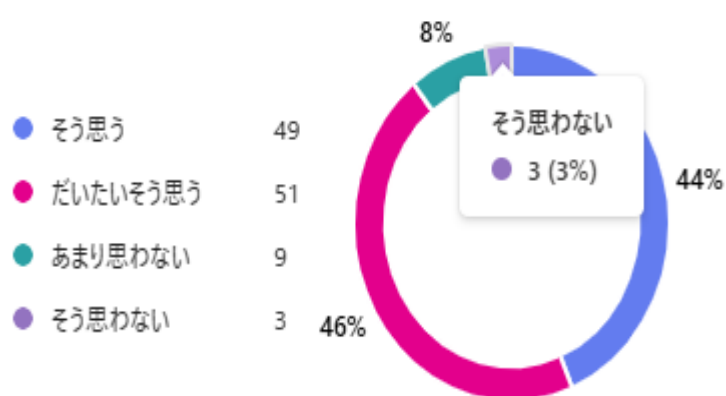
4. 「ありがとう」「ごめんなさい」などのあったか言葉が使えている。



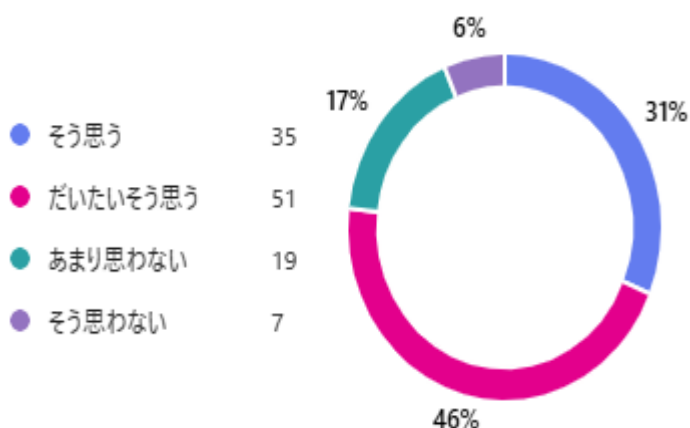
5. 積極的にタブレットPCを使って学習することができた。



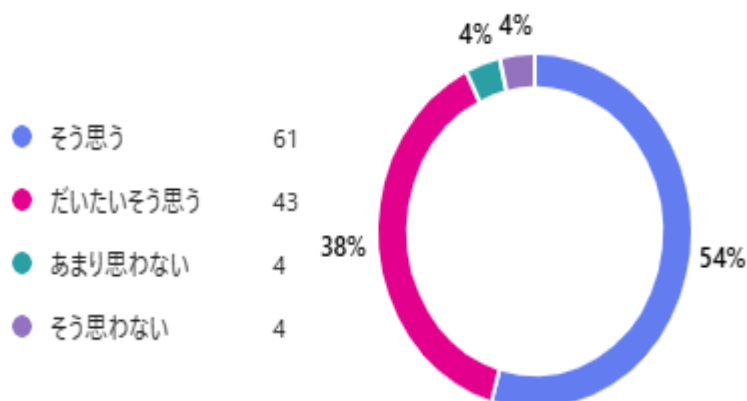
6. 授業中の話し合い活動やグループ学習に、すすんで取り組むことができた。



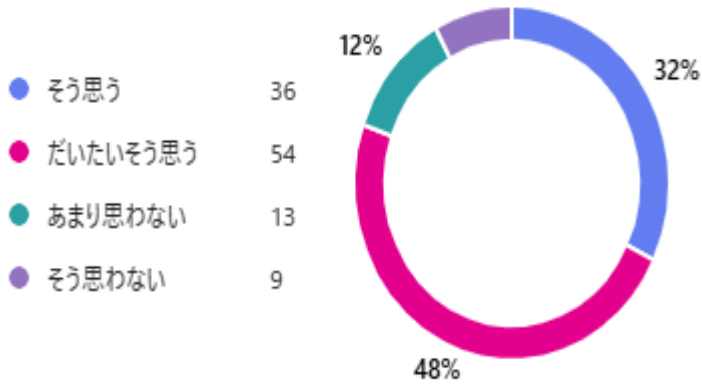
7. 授業中にわからないことがあれば、そのままにしないで、きちんと先生に聞いたり、自分で調べたりした。



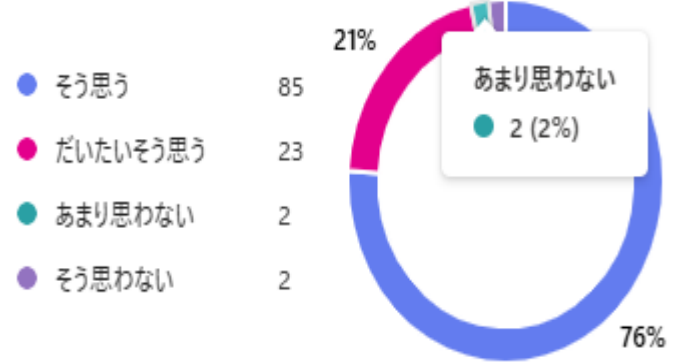
8. 相手の気持ちを考えて、まわりの人と生活することができた。



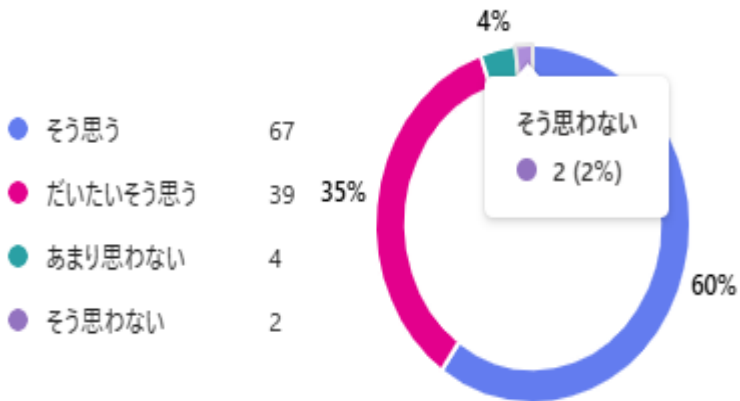
9. 自分やまわりの友達が困っていることを、先生やお家の人など、大人に相談することができた。



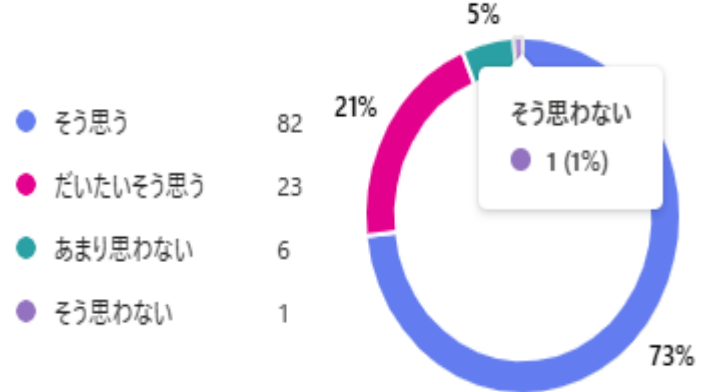
10. 生活のいろいろな場面の中で、命の大切さや人権を大切にすることについて学ぶことができた。



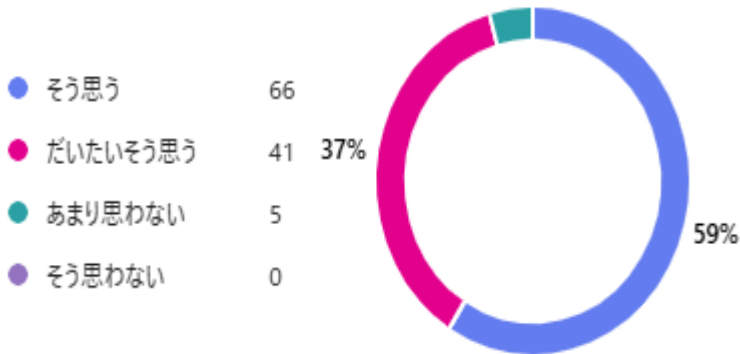
11. ルールやマナーを守って生活することができた。



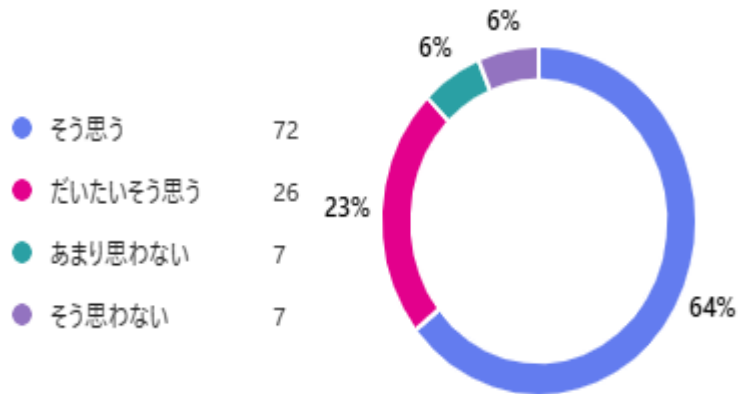
12. 学校行事などに、学校の友達と協力して取り組むことができた。



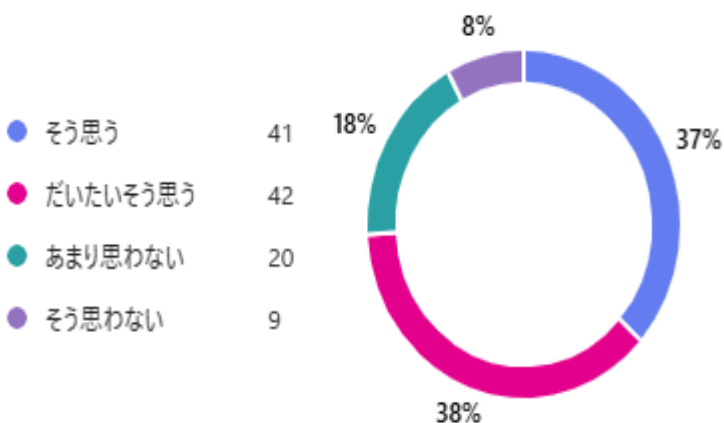
13. 委員会活動や学級の係の仕事など、自分がしなければいけないことができた。



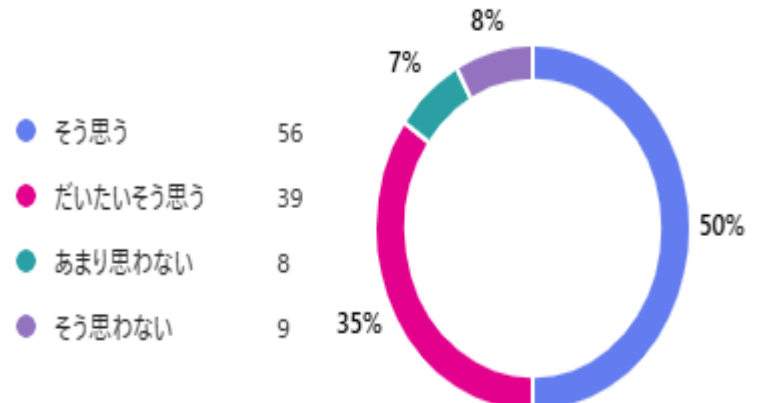
14. 部活動に意欲的に取り組んだ。



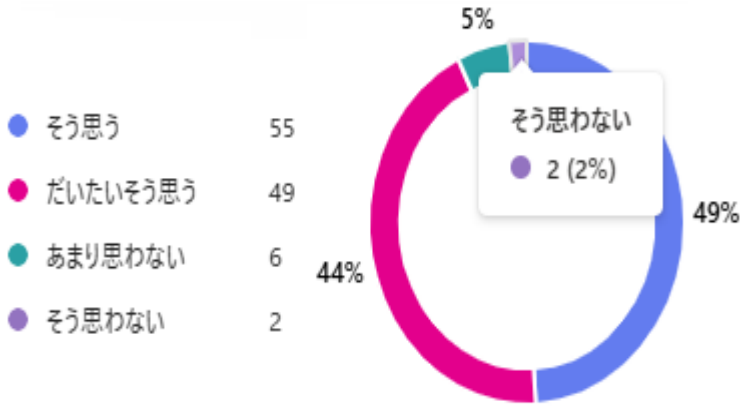
15. 生活のいろいろな場面の中で、将来の夢や働き方について考えた。



16. 学校の施設設備がこわれているのに気がついた時は、すぐに先生に知らせた。(もしそういうことがあれば知らせる)



17.学校は、生徒達が心身共に安全に過ごせるよう努めている。



18. 4月からの生活をふりかえって、感想や考えたことがあれば書いてください。

あいさつを大きな声でできるようになった。  
 最初は学校に行くのが嫌だったけど今はとても楽しいから学校に行きたくなった。  
 できなかったことが減り出来るが増えて人に迷惑をかけないようにできるだけ気を使うことができるようになったと思う  
 中学生になって慣れない生活が続いていたけれど、落ち着いて生活できるようになったと感じました。  
 我的感想是,飞长好  
 部活動などで先輩なども今までよりも関わることができた。  
 楽しい  
 中学校になって難しいこともあったけど楽しく学校に来て1年があつというまにすぎてびっくりした。  
 小学生の時より、いろいろな物事に組み込んで、努力することが楽しいことに思えてきて、まだ長所も短所も見つけられてないですが、これからゆっくり見つけていき、また、短所を長所に変えるか、その短所を利用できるような人を目指します。  
 "4月から生活を振り返って、4月はうるさかったかったけど静かになれた。  
 あと悪口とかいってたけど今はあんまり言わなくなりました。"  
 分からないことがあっても放っておいて、自分で考えていた。  
 大変なこともあったけどすごい楽しかった  
 "たくさんの方にチャレンジできたと思う  
 修学旅行楽しかった  
 "楽しかったです。  
 昼休みの時間を増やしてほしいです。"

ない  
 とても楽しい学校生活を送れています  
 もっと計画的に生活したかった。相手との接し方に気を付けることができた。  
 "今までの中で一番内容の濃い一年になったと思います。来年から受験がんばります。  
 "楽しく過ごせた  
 合計点はすごくへったけど思い出がたくさん増えためっちゃ部活行きたいと思った。「いきたくないと思ったことない」  
 今年度は、勉強にいそむことができた。また、行事が多く楽しい学校生活だった。  
 班活動を積極的にできた。  
 修学旅行がとても楽しかったです。  
 万博が楽しかったです。"  
 すごく生活が落ち着いて過ごせるようになった。  
 とても充実した学校生活を送ることができた  
 とても学校が楽しかった。  
 特になし  
 友達との絆を深めれた一年だった。意欲的に部活動にも取り組めたと思う。  
 二年生になって進路に向かって頑張っていると思う。  
 楽しい一年だった。  
 特にない  
 友達や先輩と仲良くできたから、学校が楽しかった。  
 頑張っていきたい  
 特にありません。  
 特に相手のことを思いやることができた  
 楽しかった  
 充実した一年間だった。

受験にむけて勉強や、いろいろなことを頑張った。

勉強や運動にしっかり取り組めた。

友達と協力できた

一年間長いようですぐ時間が経って充実した楽しい学校  
をおくることができた。

落ち着いた生活ができた。

より友達との仲が深まった一年になった

社会と理科の勉強ができた

ない

全員が仲良くできていてよかった

よかった

なし。

自分も含めみんな頑張っていたと思う。

いろんなことがあった1年だった

たのしかった

## 令和7年度 学校評価アンケート分析報告（生徒対象）

### 1 分析の趣旨

本校では、生徒自身の学校生活に対する実感や成長の様子を把握し、教育活動の成果と課題を明らかにすることを目的として、令和7年度学校評価アンケート（生徒対象）を実施した。本分析は、設問への回答および自由記述の内容を基に、今年度の取組の成果と今後の改善の方向性を整理するものである。

### 2 学校生活全般に関する評価

「学校に来るのが楽しいと思いつながりながら過ごすことができた」という設問や、自由記述に多く見られる「楽しかった」「充実していた」「学校が好きになった」といった記述から、生徒の多くが学校生活を前向きに捉え、安心して学校に通えている様子がうかがえる。

特に、中学校生活への不安を抱えながら入学した生徒が、時間の経過とともに落ち着いて生活できるようになったと振り返っている点は、本校の生活指導や学級経営が一定の成果を上げていることを示している。

### 3 人間関係・社会性の育成に関する成果

「あいさつができた」「相手の気持ちを考えて生活できた」「ありがとう・ごめんなさいなどの言葉が使えた」といった項目および自由記述からは、生徒が日常生活の中で人との関わり方を意識し、より良い人間関係を築こうとしている様子が読み取れる。

また、「友達との絆が深まった」「先輩と関わることができた」「協力して活動できた」といった記述は、学級活動や学校行事、部活動を通して、社会性や協調性が育まれていることを示している。

### 4 学習活動に関する評価

授業に関する設問からは、話し合い活動やグループ学習、ICT機器の活用に積極的に取り組もうとする姿勢が見られる。また、「分からないことをそのままにせず、先生に聞いたり自分で調べたりした」という設問は、生徒が主体的に学習に向かおうとしていることを示している。

一方で、自由記述の中には、自分から質問することの難しさを感じている生徒の記述も見られ、今後は、より安心して学びに向かえる授業環境づくりが課題である。

### 5 規範意識・責任感の育成

「ルールやマナーを守って生活できた」「委員会活動や係の仕事を果たした」「施設設備の不具合を知らせようとした」といった設問からは、生徒が学校の一員としての自覚を持ち、責任ある行動を取ろうとしている様子がうかがえる。

自由記述においても、「落ち着いて生活できるようになった」「悪口を言わなくなった」といった自己の変化を振り返る記述が見られ、生徒自身が成長を実感していることが確認できる。

### 6 行事・部活動・進路意識に関する評価

学校行事や部活動に関する設問および自由記述からは、多くの生徒が活動に意欲的に参加し、達成感や思い出を得ていることが読み取れる。特に、修学旅行や校外行事に関する肯定的な記述は、生徒の学校生活の充実につながっている。

また、「将来の夢や働き方について考えた」という設問や、進路に言及する記述からは、学年に応じて将来を意識し始めている生徒の姿がうかがえる。

## 7 安全・安心に関する評価

「学校は心身ともに安全に過ごせるよう努めている」という設問への評価や、自由記述における落ち着いた生活への言及から、本校が生徒にとって安心できる学習・生活環境となっていることが確認できる。

## 8 総合的考察と次年度への方向性

本アンケートの分析から、生徒は学校生活全般を前向きに受け止め、人間関係、学習、行事、部活動などを通して、着実に成長していることが明らかとなった。一方で、学習における主体的な発言や計画的な生活といった面については、引き続き支援が必要である。

次年度に向けては、生徒一人一人が安心して挑戦できる環境をさらに整えるとともに、自ら考え、行動し、成長を実感できる教育活動の充実を図っていく。

## 9 まとめ

令和7年度の学校評価アンケート（生徒対象）は、本校の教育活動が生徒の安心感と成長の実感につながっていることを示している。今後も、生徒の声を大切にしながら、教育活動の改善に継続的に取り組み、よりよい学校づくりを推進していく。

## 令和6年度・令和7年度学校評価アンケート（生徒対象）比較分析

### 1 比較の視点

本校では、令和6年度および令和7年度において、同一の設問による学校評価アンケート（生徒対象）を実施した。本比較分析は、生徒の学校生活に対する意識や成長の実感について、年度間の変化を整理し、本校の教育活動の成果と課題を明らかにすることを目的とする。

### 2 学校生活への意識の変化

「学校に来るのが楽しいと思いつながりながら過ごすことができた」という項目については、R6・R7を通して設定されており、生徒の学校生活全般に対する受け止め方を示す重要な指標である。

R6では、新しい学年や環境への適応を意識した記述が多く見られ、学校生活に慣れていく過程がうかがえた。これに対し、R7では、「楽しい」「充実していた」「落ち着いて生活できた」といった表現が増え、学校生活が日常として定着し、安心感をもって過ごせている様子がより明確になっている。

### 3 人間関係・社会性に関する比較

「あいさつ」「あったか言葉の使用」「相手の気持ちを考えた行動」などに関する設問は、両年度を通して、生徒の人間関係や社会性の育成を測る項目として位置付けられている。

R6では、基本的な行動や態度を意識する段階での自己評価が中心であったのに対し、R7では、「友達との絆が深まった」「先輩や周囲の人との関係が広がった」といった記述が見られ、人との関わりが質的に深まっていることがうかがえる。

### 4 学習活動に関する意識の変化

授業に関する設問（話し合い活動、ICT活用、分からないことへの対応）については、R6では「取り組んだかどうか」という行動面の意識が中心であった。

一方、R7では、「自分で調べた」「分からないままにできなかった」といった主体的な学習行動を示す記述が見られ、学習への関わり方が受動的なものから能動的なものへと変化している様子が読み取れる。

### 5 規範意識・責任感の育成に関する比較

「ルールやマナーを守る」「係や委員会の仕事を果たす」「施設設備の不具合を知らせる」といった項目については、R6では「守る」「行う」といった行動の確認が中心であった。

R7では、「落ち着いて生活できるようになった」「自分の行動に気を付けるようになった」といった自己の変化を振り返る記述が増え、規範意識が内面化されつつあることがうかがえる。

### 6 行事・部活動・進路意識に関する比較

学校行事や部活動については、R6では「参加した」「楽しかった」といった体験の共有が多く見られた。R7では、「協力できた」「意欲的に取り組んだ」「思い出が増えた」といった記述が増え、活動を通じた達成感や成長の実感が強まっている。

また、将来の夢や進路に関する設問についても、R7では「受験に向けて頑張りたい」「将来を意識するようになった」といった記述が見られ、学年進行に応じた意識の深化が確認できる。

## 7 総合的考察と今後の方向性

R6とR7を比較すると、生徒の学校生活に対する意識は、「環境への適応」から「安心と充実の実感」へ、「与えられた活動」から「主体的な関わり」へと段階的に変化していると捉えることができる。

今後は、こうした成長をさらに確かなものとするため、生徒一人一人が自らの成長を言語化し、次の目標へとつなげられる教育活動の充実が求められる。

## 8 まとめ

令和6年度および令和7年度の学校評価アンケート（生徒対象）の比較から、本校の教育活動は、生徒の安心感と主体的な成長の双方に寄与していることが明らかとなった。今後も生徒の声を大切にしながら、教育活動の改善を継続し、より充実した学校生活の実現を目指していく。